
平成31年度
全国学力・学習状況調査

指導の改善策

－ 国語編 －

旭川市教育委員会

目次

課題の改善策

2～11ページ

○今年度の国語の「正答率」「誤答例」「無解答率」などの詳細な分析から、課題を洗い出し、小・中学校でそれぞれ、課題を解決するための国語科及び他教科等における具体的な授業（指導）プランを作成しました。

言葉の力を他教科・他領域でも生かす・育むポイント

12～17ページ

○言葉の力は、国語科のみならず、全ての教科・領域等の指導で意図的に育むことが大切です。発達段階ごとの指導のポイントを教室掲示できる資料（名人シート）として整理しました。

国語科の授業づくりQ&A

18・19ページ

○初任段階からベテラン教員まで、「今さら聞けない」「今こそ聞きたい」国語科の授業づくりのポイントについてQ&A形式で、資料と関連付けながら整理しました。

国語科の授業づくりのステップ（単元・本時）

20・21ページ

○国語科の授業づくりを進める手順やその際に大切にしたいポイントについて、「単元編」「本時編」として整理しました。

国語科の授業改善のポイント

22・23ページ

○主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善のポイントとして、「見通し」、「対話」、「振り返り」の工夫について、具体的な授業例において示しました。

言葉の力を育むカリキュラム・マネジメント

24・25ページ

○自校の課題を踏まえ、授業者として、あるいは経営者として、教科等横断的にカリキュラム・マネジメントできるよう、視点を「6つのS」として整理しました。

深い学びに導く発問・指示～教師の言語技術～

26ページ

○児童生徒がつまづいている状況から、深い学びの実現に導く発問や指示について、教科等横断的に活用できる教師の言語技術として具体例とともに整理しました。

【あさひかわ】国語学習プリント

27ページ

○今年度の調査の課題となった設問に対応した問題のほか、これまでの課題も踏まえた、本市の児童生徒のための学習プリントを11枚、新たに作成しました。

小学校・中学校学習指導要領 国語 指導事項一覧

28～34ページ

○小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面実施となる新学習指導要領の指導事項を、9年間の連続性・発展性に着目できるよう横並びにしてまとめました。

課題の改善策 1

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

小1三 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の[]に、「2 調査の内容と結果」の（１）と（２）で分かったことをまとめて書く。

小学校国語

学習指導要領における領域・内容
〔第5学年及び第6学年〕書ウ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 必要な情報を複数の資料から取り出すことができない。
- ② 自分の考えの根拠となる事実を見付けることができない。

＜身に付けさせたい資質・能力＞

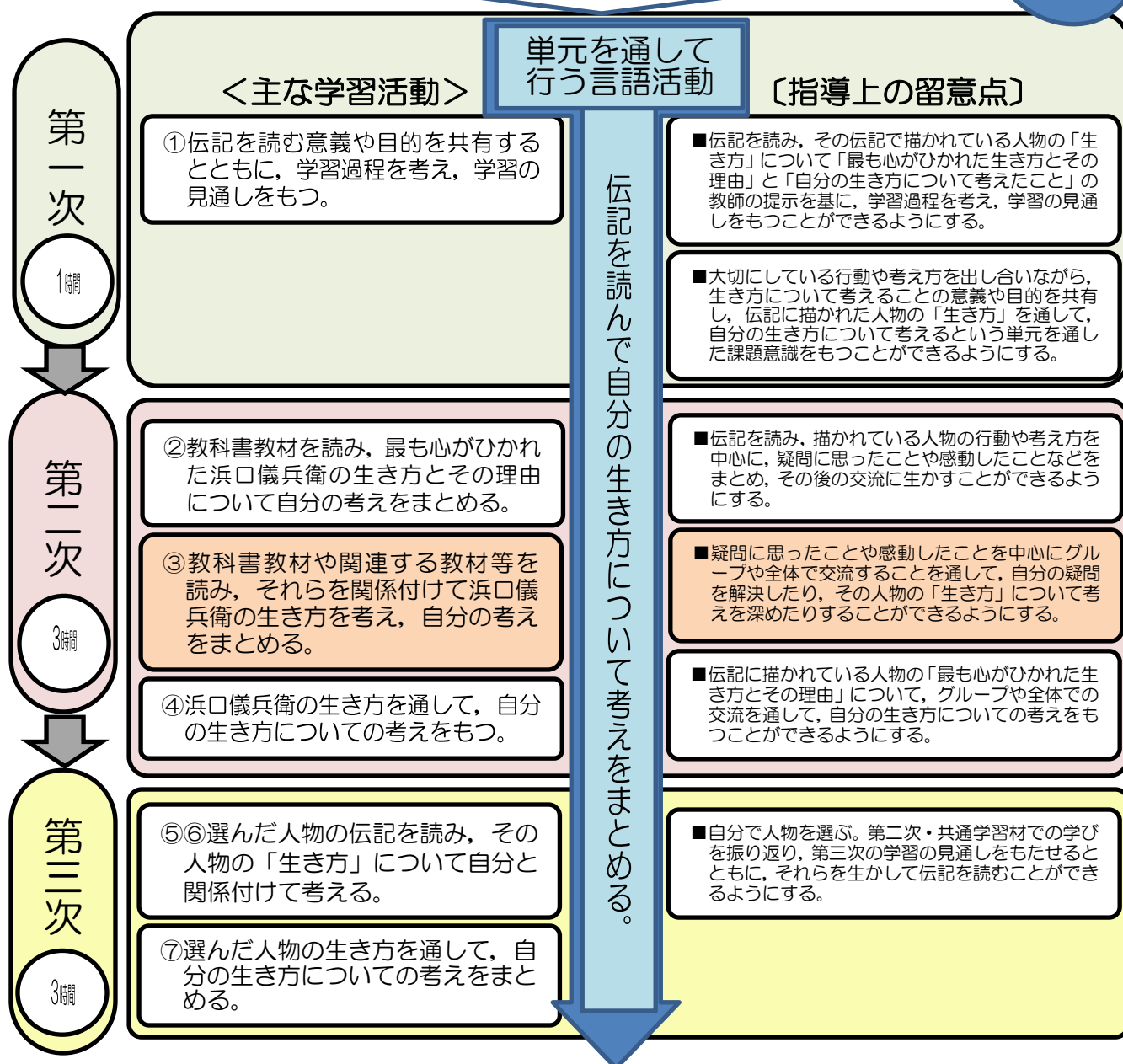
・目的や意図に応じて、複数の情報を根拠にして考えをまとめる力。（小5、6 読むこと イ）

＜授業プラン＞

第5学年「伝記を読んで、自分の生き方について考えよう」教科書P158

○目的に応じて複数の本や文章を選んで読み、内容を的確に押さえながら、自分の考えを明確にする力（読むこと イ・ウ・オ）

単元を通して身に付けさせたい力



本授業例は、前時に浜口儀兵衛の生き方について魅力を感じたことについて考えをまとめた際に生じた自分の疑問を解決するために、教科書教材や関連する教材等を読み、それらを関係付けることを通して、自分の考えを広げたり深めたりすることをねらったものです。

課題解決のPOINT

複数の文章から得た情報を生かして、もう一度前時の課題に取り組むことによって、複数の根拠を基にして、考えをまとめる力を育みます。

発問 自分が考える「儀兵衛の生き方」に關係している情報はどれですか。【関係性に着目させる】

児童が限られた授業時間の中で「複数の文章から情報を得ること」のよさを実感できるよう、事前に選書して準備することや、グループで相談しながら活動できるようにするなどの工夫が大切です。

「疑問を解決するため」という目的意識を明確にするとともに、本時の学習で複数の資料に当たる必要感をもたせることにより、児童の学習意欲が高まります。

ふり返り

・複数の文章から情報を得ることにより、どのようなよさがありましたか。
・今日の学習は、自分で選んだ伝記を読む学習にどのように生かせそうですか。

- 「浜口儀兵衛」はヤマサ醤油の社長に代々伝わる名前。この儀兵衛は七代目。
 - 儀兵衛はこの後政治家になつた。
 - 儀兵衛が投じた私財は二億円以上。
 - 堤防づくりを給料を払う仕事とすることで村人の流出を防いだ。
 - 若い頃、海外へ留学することを希望していたが、実現できなかった。
 - 学校を創立して、人材の育成に力を注いだ。
 - 貧しい人でも学べるように、援助した。
- その中には、勝海舟もいた。

複数の文章から得た情報

- 目次や見出しを活用する
- 段落ごとに必要な情報をキーワードで探す
- 多くの本に目を通す

複数の文章から情報を得るために

めあて

自分の疑問を解決するために、教科書の他の部分や別の本を読み、考えを深めよう。

- ・疑問を解決するためには？
- ・関係のありそうな他の部分を読む
- ・別の本を読む

伝記を読んで、自分の生き方について考えよう
みんなの疑問

- ・なぜここまで自分を犠牲にできるのか？
- ・この後どんな人生を送ったのか？
- ・若いときはどんな生活をしてたのか？
- ・人生で大切にしていたことは何か？

【教師のかかわり③】

→自分の考えをまとめさせる

◆各自の集めた情報を全体で交流し、改めて「儀兵衛の生き方」について考えさせることにより、考えの広がりや深まりに気付かせます。

【教師の発問③】

「儀兵衛の生き方」について、自分の考えはどう変わったかな。

【児童の思考例③】

- A：政治家になったということは、やっぱり人のために働くことを大切にしているんだな。
- B：村の人々の流出を防ぐための再建計画が、「堤防づくり」だったのか。
- C：自分の夢が叶わなかったのに、国のために人を育てようなんてすごい。

複数の本を読むことで、疑問を解決して考えを深めることができました！

【教師のかかわり②】

→自力で読み進める見通しをもたせる

◆疑問を解決するためにどのように図書を活用できるか、活動させる前に見通しをもたせさせます。

【教師の発問②】

知りたい情報は、どのように手に入れたらよいかな。

【児童の反応例②】

- A：教科書だけに注目しても限られた情報しか見付からないね。
- B：教科書以外の本からも見付けられそうだね。
- C：別の本の見出しや目次に注目すると、知りたい情報が見付きそうだよ。

目次や見出しなどを活用するとともに、別の本からも情報を手に入れてみよう！

【教師のかかわり①】

→必要感をもたせる

◆自分の疑問を解決するには、前時までに読んだ部分だけでは情報が足りないことに気付かせ、複数の資料を活用する必要性を確認します。

【教師の発問①】

疑問を解決するには、どうしたらよいかな。

【児童の反応例①】

- A：今読んでいるところには、疑問の答えが見付けられない。
- B：教科書の他の部分を読んだらどうだろう。
- C：浜口儀兵衛に關係する別の本を読んでもよさそうだね。

教科書の他の部分や別の本を読み、疑問を解決しよう！

課題の改善策2 <他教科等での実践>

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

小1三 調べたことを報告する文章を書く（「公衆電話」）

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の□□□に、「2 調査の内容と結果」の（1）と（2）で分かったことをまとめて書く。

小学校国語

学習指導要領における領域・内容
〔第5学年及び第6学年〕書ウ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 必要な情報を複数の資料から取り出すことができない。
- ② 自分の考えの根拠となる事実を見付けることができない。

<活用することを通して、定着を図りたい資質・能力>

- ・自分の考えと、その根拠となる事実を複数の資料から取り出して書く力。（小5、6 書くこと ウ）

本授業プランは、社会科の学習において、沖縄の人々の暮らしや産業の様子をまとめる際に、自分の考えを伝えるために資料から目的に応じて必要な情報を取り出すよう働きかけることにより、資料を基にして思考を深める学習の実現を目指すものです。また、こうした活用を通して、「自分の考えと、その根拠となる事実を複数の資料から取り出して書く力」の一層の定着を図ります。

<授業プラン>

第5学年 社会科 「あたたかい土地のくらしー沖縄島ー」教科書P44

社会科の 本時の目標

沖縄県の人々が自然条件に合わせたくらしや産業の工夫をしていることをとらえ、調べたことや考えたことを表現することができる。（観察・資料活用の技能4/4）

学 習 活 動

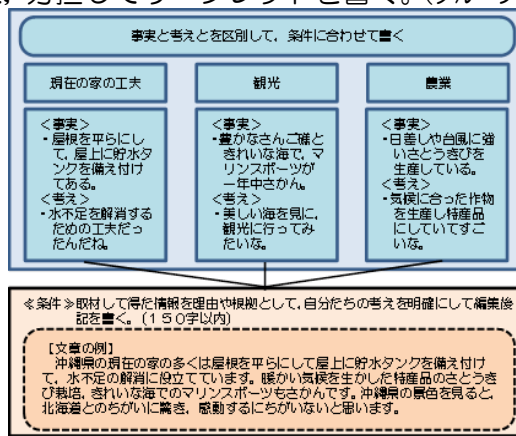
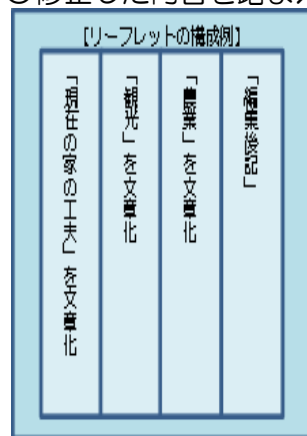
○前時までに整理した「現在の家の工夫」「観光」「農業」についてまとめたカードと根拠とした資料を確認する。

めあて 沖縄県の人々のくらしや産業の様子について、学んできたことをリーフレットにまとめよう。

○カードを読み合い、次の視点で見直しなが、書き加えたり、書き直したりして修正する。（グループ）

- ・特徴的な事実が資料から取り出されているか。
- ・資料を踏まえた考えがまとめられているか。

○修正した内容を踏まえ、分担してリーフレットを書く。（グループ）



※条件を取材して得た情報を理由や根拠として、自分たちの考えを明確にして編集後記を書く。（150字以内）

【文章の例】
沖縄県の現在の家の多くは屋根を平らにして屋上に貯水タンクを備え付けて、水不足の解消に役立っています。暖かい気候を生かした特産品のさとうきび栽培、きれいな海でのマリンスポーツもさかんです。沖縄県の景色を見ると、北海道とちがいに暑さ、感動するにちがいないと思います。

○リーフレットの編集後記を作成する。（グループ）

○リーフレットを交流し、単元の学習を振り返る。

言葉の力の活用

活用する指導事項

（小）第5・6学年 B書くこと ウ
事実と感想、意見などを区別するとともに目的に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。

言葉の力を生かす・育む

【発問】沖縄県のことを伝えるリーフレットにするために、欠かせない条件はなんですか。

【条件を明確化させる】

言葉の力を生かす・育む

【指示】一人一人の情報を持ち寄って、次の条件で編集後記をまとめよう。

- ①「現在の家の工夫」「観光」「農業」の3つの内容から情報を取り上げること
- ②120字以上、150字以内でまとめること

課題の改善策3 <他教科等での実践>

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

小3 二 目的に応じて、質問を工夫する。

豊職人への【インタビューの様子】の[]の場面における、質問の工夫として適切なものを選択する。

小学校国語

学習指導要領における領域・内容
〔第5学年及び第6学年〕 話・聞 エ

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

① インタビューの受け手が、インタビュアーの質問に答えることが難しいと感じている状況を捉えることができない。

<活用することを通して、定着を図りたい資質・能力>

・話の展開に沿って、目的に応じた質問をする力。(小5, 6 話すこと・聞くこと エ)

本授業プランは、総合的な学習の時間において、インタビューの質問を考える際に、イメージマップを活用し、「必ず聞く質問」と「必要に応じて聞く質問」を考えることにより、必要な情報を得るインタビューの実現を目指すものです。また、こうした活用を通して、「話の展開に沿って、目的に応じた質問をする力」の一層の定着を図ります。

<授業プラン>

第5学年 総合的な学習の時間 「旭川PR大使になろう！」(地域)

総合の本時の目標	インタビューで、自分が知りたい情報を得るために、話の展開を想定して質問を考えることができる。(9/40時間目)(思考・判断・表現)
----------	---

学 習 活 動

○興味をもった旭川の施設について調べてきたことや、より詳しく知るために、施設に行ってインタビューする計画を立てていたことを確認する。

めあて 必要な情報を得るために、よりよい質問を考えよう。

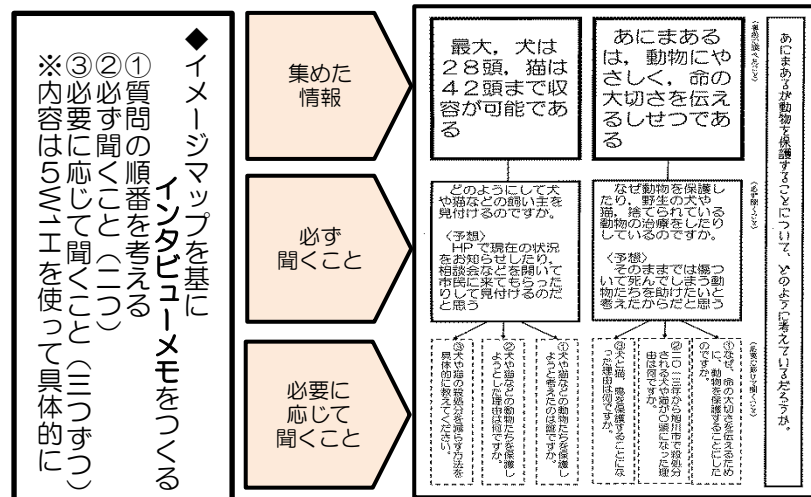
○国語科で学習した質問のつくり方を想起する。

HP 等で集めた情報を基にして

- ① 事前調査ワークシートにまとめる
- ② ①を基に、イメージマップをつくる
- ③ ②を基に、インタビューメモをつくる

今日は
②と③の
学習だ！

○イメージマップ、インタビューメモをつくる。(個人)



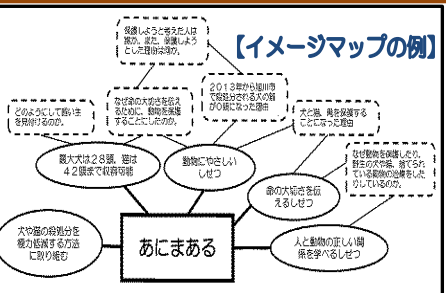
言葉の力の活用

活用する指導事項

(小) 第5・6学年 A話すこと・聞くこと エ
話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。

言葉の力を生かす・育む

発問国語科「きいて、きいて、きいてみよう」の学習を思い出しましょう。



言葉の力を生かす・育む

発問イメージマップを基にして、「必ず聞く質問」と、その質問に対する相手の回答によって「必要に応じて聞く質問」を考えましょう。

言葉の力を生かす・育む

発問知りたい情報が得られる質問になっていますか。

課題の改善策4 〈他教科等での実践〉

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

小1四(1)ア、ウ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の中の——ア及び——ウを、漢字を使って書き直す。

(調査のたいしょう、かんしんをもってもらいたい)

小学校国語

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕伝国 (1)ウ(ア)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 同音異義語の漢字を正しく書くことができない。
- ② 文の中で使われる言葉を正しく漢字で書くことができない。

<活用することを通して、定着を図りたい資質・能力>

- ・自分が書く文章において、正しく漢字を書く力。(小5、6 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)ウ(ア))

本指導プランは、朝学習の時間に行事の作文を書く活動において、推敲する際に「名人シート」を活用し、作文の質を高めることをねらいとしています。また、推敲の視点として漢字に着目させることにより、「生きた文章の中で活用できる知識」として漢字を書く力の一層の定着を図ります。作文指導は、様々なねらいを設定することが可能ですが、児童の実態に応じ、本プランのように漢字に着目させることも方法の一つです。

<指導プラン>

第3学年 朝学習 「遠足の作文を書こう」

朝学習の目標	心に残った出来事について、思いが伝わるように工夫して文章を書くことができる。
--------	--

学 習 活 動	言葉の力の活用
○遠足で心に残った出来事について、フリートークで交流する。 めあて 心に残ったことが伝わるように、遠足の作文を書こう。 ○作文する際に気をつけることを整理する。 ・心に残ったことを中心に書く ・180字以上200字以内で書く ・書き終わった後は、「名人シート」で推敲する ○遠足の作文を書く。(個人) ○名人シート「推敲」を活用して、推敲する。 (作文を書き終えた児童から随時)	活用する指導事項 (小)第3・4学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)ウ(イ) 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。 言葉の力を生かす・育む 発問 文章を書き終わった後に、大切なことは何ですか。 言葉の力を生かす・育む 指示 今日の推敲は、漢字のチェックを最重点にします。直しを行う際は、消しゴムで消さず、赤鉛筆で横に書きましょう。 【焦点化する】 言葉の力を生かす・育む 指示 よいところを見付けながら読みましょう。併せて、漢字の間違ひを見付けたら指摘してあげましょう。

名人シート

推敲 のポイント

○ よりよい表現になるように、書いた文章を読み返しましょう。

- ・学習した漢字が正しく使われていますか。
- ・主語と述語(はねじれていませんか。
- ・「は」「を」「へ」の使い方は正しいですか。
- ・文の終わり方はそろっていますか。
- ・「じゃう体」「ーだ。」「ーである。」「けいり体」「ーです。」「ーます。」
- ・相手や目的に合った表現になっていますか。
- ・だれに向けて書いているか。
- ・何のために書いた文章なのか。
- ・内容のまとまりごとに、段落を分けて書いていますか。

授業方向と指導プロセスシート作成

課題の改善策5 <他教科等での実践>

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

小1四(2) 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く。

公衆電話について調べたことを【報告する文章】の [] の1文を、
接続語「そこで」を使って2文に分けて書き直す。

小学校国語

学習指導要領における領域・内容
〔第3学年及び第4学年〕 伝国 (1)イ(ク)

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① 2つの内容に分けて書く箇所を適切に捉えられていない。
② 2つの文に分けた際、適切な文末表現に整えることができない。

＜活用することを通して、定着を図りたい資質・能力＞

- ・自分が書いた文を、目的に応じ、接続語を使って適切な長さの文に書き分ける力。
(小5、6 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)イ(ク))

本指導プランは、委員会活動で全校児童への呼びかけを考える活動において、音声言語で相手に分かりやすく伝えるためには1文を短くすることが大切であることに気付き、発表の質を高めることをねらいとしています。また、分かりやすく伝えられたことを実感することにより、「自分が書いた文を目的に応じ、接続語を使って適切な長さの文に書き分ける力」の定着を図ります。

＜指導プラン＞

第5・6学年 児童会活動 「安全な生活を呼びかけよう」

児童会活動 の目標	全校児童が事故に遭わないよう、安全な生活を心がける意識を高めるための 注意喚起を行う発表原稿をつくることができる。(1 / 1)
--------------	---

学 習 活 動	言葉の力の活用
○学校で発生している、あるいは発生しそうな事故について交流する。 めあて 全校児童が、事故に遭わないように、安全な生活が心がける意識を高めるための呼びかけを考えよう。 ○名人シート「話すとき」を活用して、全校朝会で伝える内容を考える。 ○決めたことを呼びかける原稿をつくる。(グループ) ○名人シート「推敲」から、音声言語で伝える際は、 1文が長いと分かりにくいことに気付く。 ○「あさひかわ国語プリント②」を活用し、長い1文を2文に直す練習をしてから、原稿を修正する。 ○名人シート「話すとき」を活用して発表の練習をする。 (原稿が完成したグループから随時)	言葉の力の活用 活用する指導事項 (小) 第5・6学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1)イ(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。 言葉の力を生かす・育む 発問 名人シート（推敲）で原稿をチェックします。特に、声に出して伝える際に気を付けることは何ですか。 言葉の力を生かす・育む 指示 長い1文を、接続詞を使って2文に直す練習をしよう。 言葉の力を生かす・育む 発問 みんなが全校朝会でこの発表をする目的は何だったかな。 【総括的に見通しをもたせる】

課題の改善策6

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

中学校3 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。

文章を読み、グラフの情報を根拠として、意見文の下書きに商店街の「魅力」の具体例を書く。

中学校国語

学習指導要領における領域・内容
〔第1学年〕書く

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① グラフから、自分が伝えたい情報を捉えられていない。
- ② 伝えたい情報を自分の主張とうまくつなげて書けていない。

＜身に付けさせたい資質・能力＞

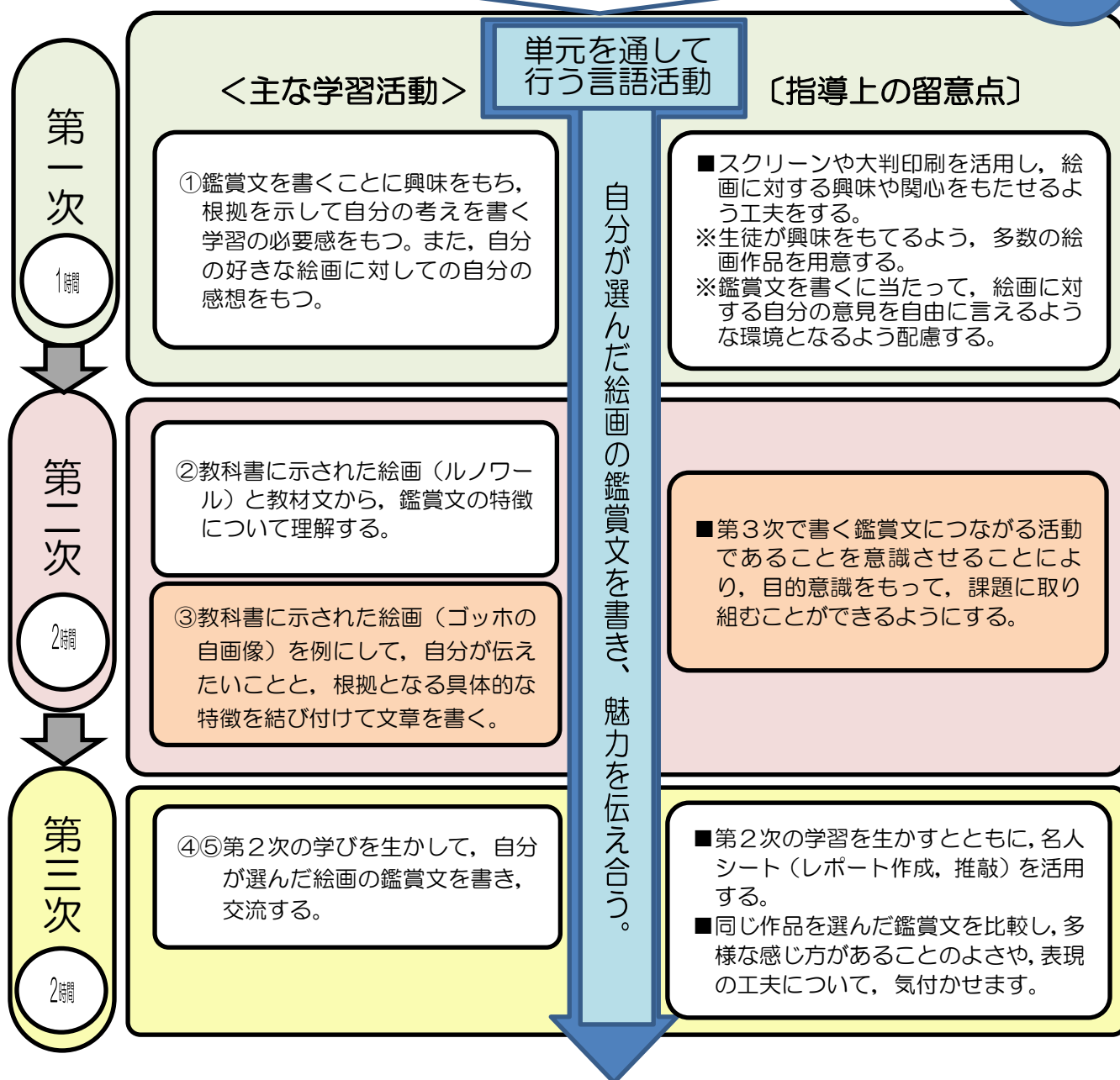
・自分の考えを伝えるために、根拠となる情報と結び付けて書く力。 (中1 書くこと ウ)

＜授業プラン＞

第1学年「根拠を明確にして魅力を伝えよう」教科書P180

○根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫して書く力（書くこと イ・ウ）

単元を通して
身に付けさせ
たい力



本授業例は、自分が選んだ絵画の鑑賞文を書くためには、伝えたいこととともに、根拠となる絵画の特徴を関連付けて記述することが必要であることを知り、教科書に掲載されている絵画を用いて、そうした力を身に付けさせることをねらったものです。

課題解決のPOINT

生徒の考えを数例板書させ、①と②を全体で確認しながら色分けした線を引き、関連付けているか確認します。その後、各自のノートにも2色の線を引き、本時のめあてを達成できたか確認します。必要に応じて、直しの時間を確保するなどの配慮が必要です。

①の例を赤、②の例を青で示すなどして意識を高めるとともに、全体交流で材料を整理してから個人思考させることにより、どの生徒も自分の考えをもてるよう配慮します。生徒の実情に応じて、具体的なモデルを示してから個人思考させることも考えられます。

「思いを伝えるためには、根拠を明確にする必要がある」ことを実感させるとともに、第3次の活動に生かすために、こうした書き方を身に付ける本時の学習の必要感をもたせます。

ふり返り

- 自分の思いを伝えるためにどのように工夫して文章を書くことができましたか。
- 自分で選んだ絵画の鑑賞文を書く際、今日の学びをどのように生かそうですか。

めあて

自分の思いを伝えるために、根拠とつなげて文章を書こう。

根拠を明確にして鑑賞文を書く

不安になる
根拠がないと
思いが十分伝わらない

① 感じた・想像したこと(伝えたい自分の思い)
② 絵画の具体的な特徴(根拠)

不安になる	暗い色合い	険しい表情
緊張感がある	顔を中心とした同心円	
ゴッホの悲しみ	太い線描	背景に赤い点描

わたしは、この絵を見ると不安になってしまふ。全体的に暗い色合いであり、ぐるぐると円を描く線描のタッチもそうした感情を増幅させる。

見る者に緊張感を与える作品である。まず、ゴッホの険しい表情に目がとまる。その顔を中心とした線描が、ゴッホの悲しみや苦しみを表現しているようである。

ゴッホの深い苦悩を感じる。険しい表情からはもろんであるが、暗い色合いの点描がそうした負の感情を感じさせるとともに、背景に混じる赤色が、怒りや痛みを連想させるのである。

【教師のかかわり③】
→自分の考えを評価させる】
◆全体で交流し確認する活動の後、個人思考した自分の考えを評価させ、できたことを実感させるとともに、必要に応じて手直しさせます。

【教師の発問③】
自分の感じたことを根拠とつなげて書くことができているかな。

【生徒の反応例③】
A：ゴッホの悲しみを伝えるために、必要となる根拠を関連付けて書けた。
B：特徴は多く書けたけど、自分が伝えたいことが曖昧だったから明記しよう。
C：ゴッホの表情についても書き加えた方が、説得力が高まりそうだ。

根拠と関連付けることを意識すると、思いが伝わる文が書けたから、第3次でもこのことを生かしたい！

【教師のかかわり②】
→自力で課題解決する見通しをもたせる】
◆考えを構成する材料例を多く例示することにより、どの生徒も伝えたいこととその根拠を見付けて、関連付けて書けるようにします。

【教師の発問②】
ゴッホの絵を見て、どの特徴からどんなことを感じますか。

【生徒の反応例②】
A：全体的に暗い色合いだから、不安になるんじゃないかな。
B：短い線で描いていて、ぐるぐるの円を描いてるのも不気味だね。
C：自分は、ゴッホがすごく厳しい表情をしているところが気になるよ。

みんなの感じ方を参考にして、自分が感じたこととその根拠を関連付けて書いてみよう！

【教師のかかわり①】
→必要感をもたせる】
◆教科書に掲載されているゴッホの自画像を題材にして、思いと根拠を関連付けて書くことでの必要感をもたせます。

【教師の発問①】
自分の思いを伝えるためには、どんな書き方の工夫が必要かな。

【生徒の反応例①】
A：「この絵は不安になる」と言われても、それだけでは伝わらない。
B：どうして不安になるのか、具体的な特徴を根拠にしたらいね。
C：自分が選んだ絵画の鑑賞文を書くときにも、この書き方が必要になるな。

伝えたいこと伝えるために、具体的な特徴と関連付けて書けるようになるぞ！

課題の改善策⑦ 〈他教科等での実践〉

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

中学校③二 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。

文章を読み、グラフの情報を根拠として、意見文の下書きに商店街の「魅力」の具体例を書く。

中学校国語

学習指導要領における領域・内容
〔第1学年〕書く

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ① グラフから、自分が伝えたい情報を捉えられていない。
- ② 伝えたい情報を自分の主張とうまくつなげて書けていない。

＜活用することを通して、定着を図りたい資質・能力＞

・自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書くこと。（中1 書くこと ウ）

本授業プランは、美術科の鑑賞の学習において、感じたことや考えの交流の際に、根拠を明確にするよう働きかけ、部分に着目する意識を高めたり、多様な気付きを生み出したりすることにより、質の高い鑑賞の実現を目指すものです。また、こうした活用を通して、「自分の考えが伝わるように、根拠を明確にして書く力」の一層の定着を図ります。

＜授業プラン＞

第2学年 美術科 鑑賞「ゲルニカ、明日への願い」 教科書P40

美術科の 本時の目標

写真と詩から、ピカソにとっての「生きる」とは何かを考え、「ゲルニカ」に込められたピカソの思いについて考える。（鑑賞1／1）

学 習 活 動	言葉の力の活用
○作品を制作中のピカソの写真（P40・45）を見る。 ○教師から、ピカソの生き方についての説明を聞く。 ○谷川俊太郎の詩「生きる」（P40・45）を読む。 ○ピカソにとって「生きる」とはどんなことだったのか、写真や既習の知識から想像したことを交流する。	活用する指導事項 （中）第1学年 B書くこと ウ 伝えたい事実や事柄について、自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。
めあて「ゲルニカ」に込められたピカソの思いについて考えよう。	言葉の力を生かす・育む 指示「感じたこと」と、そのように感じた根拠となる「部分」をワークシートにメモしましょう。
○「ゲルニカ」を見て、描かれた人や生き物の声、思いなどを想像し、メモする。（個人）	言葉の力を生かす・育む 指示 ①何をどのように感じたのか、 ②どうしてそう感じたのか、 の2点が明らかになるように、メモを生かしながら、話し合しましょう。
○それぞれの考えを交流する。（グループ）	言葉の力を生かす・育む 指示 ①「ゲルニカ」に込めたピカソの思い、 ②そう考えた根拠となる「ピカソの生き方」や『ゲルニカ』から感じたこと、 の2点が明らかになるように書きましょう。
【交流のイメージ】 A：表情に注目したときに不満や不安を感じた。特に天を仰ぐような表情が多いと思う。 B：私は手に注目したよ。手を見ると皆傷ついているように描かれているから、戦争の悲惨について表現していると思う。 C：確かに二人が言うように描かれているね。僕はなんとなく不気味な感じがするってことくらいかなあ。 D：どの部分で不気味だと思うの？ …（話し合いは続く）	
○交流を通して気付いたことを確認する。（全体）	
○めあてについての自分の考えをまとめる。（個人）	
○本時の学習を振り返る。	

課題の改善策8 <他教科等での実践>

課題の見られた問題の出題の趣旨及び概要

中1四 封筒の書き方を理解して書く。

「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く。

中学校国語

学習指導要領における領域・内容
〔第1学年〕伝国（2）ア

旭川の子どもたちは、ここでつまずいた！

- ①敬称「御中」を正しく使用することができない。
- ②投稿先の名前と住所の正しい内容を書くことができない。

<活用することを通して、定着を図りたい資質・能力>

・手紙の書き方を理解し、正確に書く力。（中1 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（2）ア）

本授業プランは、総合的な学習の時間において、お世話になった企業等に礼状を書く際に、国語科で学習した手紙の正しい書き方について確認して書くことにより、感謝の気持ちが一層伝わる礼状にすることをねらいとしています。また、こうした活用を通して、「手紙の書き方を理解し、正確に書く力」の一層の定着を図ります。

<授業プラン>

第2学年 総合的な学習の時間 「働くことについて考えよう」

総合の本時の目標	職業体験でお世話になった企業等に対し、感謝の気持ちが伝わる礼状を書くことができる。（知識・技能 20/27）
----------	--

学 習 活 動	言葉の力の活用
○前時までに、礼状の下書きが終了したことを確認し、本時の学習課題を確認する。 めあて 感謝の気持ちが伝わるよう、正しい書き方で礼状を完成させよう。 ○「あさひかわ国語プリント⑦」を活用して、正しい手紙の書き方について意識を高める。（個人、グループ） ・日付、自分の名前、相手の名前、相手の位置 ・相手方に応じた敬称 ・頭語や結語 ・時候のあいさつ ○名人シート「推敲」を活用して、手紙の下書きを推敲する。（個人） ○正しい書き方で宛名等を書くとともに、下書きを清書し、礼状を仕上げる。（個人） ○完成した手紙を互いに読み合い、よさを共有する。（手紙を書き終えた生徒から随時） ○学習を振り返る。	活用する指導事項 （中）第1学年 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（2）ア 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 言葉の力を生かす・育む 指示 正しい手紙の書き方について理解できているか、プリントで確認してみましょう。 言葉の力を生かす・育む 指示 その他の手紙を書く際に気を付けるポイントについても、国語P290「手紙の書き方」で確認しましょう。 言葉の力を生かす・育む 発問 もし自分がこの手紙を受け立った立場だとしたら、どう感じるだろうか。 【仮定する】

言葉の力を他教科・他領域でも生かす・育むポイント

人前で話すことや話し合うこと、目的に応じて調べて書くことや書いた文章を見直すこと、これらの活動は、国語科の指導事項ではありますが、多くの教科や領域においても行われる活動でもあります。

他教科等で活用する際は、発達段階に応じて、当該学年の指導事項を踏まえることにより、当該教科等の学びの成果を一層高めることになりますし、言葉の力も、繰り返し活用されることにより磨かれ、一層確かなものになります。

9年間の系統性を見取ることができるよう一覧にした教師用資料「名人ポイント」と、各学級に掲示したり、個別に印刷してものをラミネート加工して手持ちにしたりするなどして活用できる、児童生徒用の「名人シート」を作成しました。

「名人ポイント」「名人シート」のいずれも、ホームページからダウンロードすることができますので、市内の各教室で積極的に活用されることを期待しています。

教師用資料
名人ポイント

「話すとき」
「話し合い」
「レポート（情報収集・整理）」
「レポート（記述）」
「推敲」

の、5つの活動について、国語科の指導事項を基にして、当該学年で活用する際のポイントについて、発達段階の系統性を横並びで比較できるように一覧表にまとめました。

また、小学校編と中学校編を作成しており、それぞれ、小・中学校のつながりが見えるようになっています。

言葉の力を他教科・他領域でも生かす・育む -名人ポイント- (小学校 話すこと・聞くこと編)

[illegible]

言葉の力を他教科・他領域でも生かす・育む -名人ポイント- (小学校 書くこと編)

[illegible]

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

話すときのポイント

- ① 話すことをきめるとき
 - ・学校やお家、ちいさなできごとや、じぶんがけいけんしたことを思い出そう。
 - ・1番(ばん)話したいことをえらぼう。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・話すじゅんばんを考えよう。
 - ・はじめー中ーおわりのまとまりをつくろう。
- ③ 話すときに気を付けること
 - ・あいてに聞こえる声の大きさ ・聞きやすいはやさ
 - ・だいいなことは大きな声でゆっくり

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年用

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・話題について特に伝えたいことは何かをはっきりさせよう。
 - ・必要な説明や具体例は何かを短く簡潔書きで書き出してみよう。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・①で集めた材料を並べる順番を考えてナンバリングなどしながら組み立てよう。(簡単な構成メモをつくるといいよ。)
 - ・接続語や文末表現(～だ、である、です、ます)、時間の流れなどもよく考えよう。
- ③ 話すとき
 - ・聞き手のうなずきや表情などの反応を見ながら言葉の選択や話すスピード、音量、間の取り方などに気を付けて話をしよう。
 - ・キャッチコピー、表やグラフ、ランキング形式など必要に応じて伝え方を工夫してみよう。

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・目的をいしきて、日常生活から話題を決めよう。
 - ・本や文章を読んだり、人に聞いたりして、材料を集めよう。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・あい手に伝わるように、理由やれいをあげよう。
 - ・話の中心が伝わるように順番を考えよう。
- ③ 話すときに気を付けること
 - ・時と場に合った声の出し方や言葉づかい、しせん
 - ・言葉のよくようや強弱、間の取り方

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年用

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・話題について、自分の伝えたいことと合わせて、考えや立場(賛成・反対など)を書き出してみよう。
 - ・考えの根拠・理由は何かを考えてみるといいよ。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・筋道の通った話になるようにどのような順序で話す事柄を並べたら聞き手に伝わるかなどを考えて、話を構成しよう。
 - 例 話題・考えや立場(簡単に)→根拠・具体例・体験→意見(まとめ)
- ③ 話すとき
 - ・本、図表、グラフ、写真などを含む資料などを活用しよう。
 - ・パソコンなどのプレゼンテーションソフトやフリップなどを使って話すと、より聞き手に伝わりやすかったり、興味を引きつけたりすることができるよ。

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・話す目的や意図にあった材料を日常生活から集めよう。
 - ・材料を内容ごとにまとめたり結びつけたりして整理しよう。
- ② 話すメモを作るとき
 - ・内容が明確になるよう話す順序を考えよう。
 - ・事実と感想、意見とを区別しよう。(接続語や文末表現に注意)
- ③ 話すときに気を付けること
 - ・目的や相手、状況などにあった資料の提示やその順番
 - ・視線や指示の仕方

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年用

話すときのポイント

- ① 話す内容を考えるとき
 - ・色々な考えをもつ相手に理解・納得してもらえるように、意見の根拠・理由をはっきりさせよう。
- ② 話すメモを作るとき(組み立ての工夫の仕方の例)
 - ・伝えたい内容に關係する体験談を交えてみよう。
 - ・具体例を根拠としてみよう。
 - ・説明の順序を工夫してみよう。
 - ・聞き手を納得させる語句を選んでみよう。
- ③ 話すとき
 - ・聞き手の人数や立場話す会場の広さなどにより次の工夫をしてみよう。
 - 例 「内容を補足する」「問いかけや質問を促す」など

「話題提示」では、問いかけや呼びかけを…
「内容の説明」では、丁寧な言葉の説明を…体験(事実)と考え・思いを区別して…
「まとめ」では、呼びかけや印象に残る表現で…

授業力向上国語プロジェクトチーム作成

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

話し合いのポイント

- ともだちの話をよく聞こう。
- 聞きたいことがあったら、しつもんをしよう。
- 話を聞いて思ったこと(かんそう)をつたえよう。
- つぎのことばをつかおう。

・「うんうん」、「なるほど」、「へー」

・「もう一回、言ってくれる？」

・「〇〇っていうこと？」

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年用

話し合いのポイント

- ① 話し合いを始めるとき
 - ・目的や話題、話し合いの進め方について確認しよう。
 - ・話し合いを始める前にテーマに関係する材料を集め意見を述べる前に整理しておこう。
- ② 話し合うとき
 - ・意見を述べるときは自分の意見や立場、その根拠となる事実について簡潔に発表しよう。
 - ・仲間の話を聞くときは、要点や疑問点についてメモをとろう。
 - ・メモをした疑問点を質問したり、お互いの共通点や相違点について意見を出し合おう。
 - ※質問するときには誰のどの発言についてかをはっきり伝えよう。
 - ※話し合いに行きづまったり、対立したりしたら、目的に戻ろう。
- ③ 話し合いをまとめるとき
 - ・納得できる意見を選んだり、お互いの考えを結びつけたりして、話し合いをまとめていこう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

話し合いのポイント

- ① 始める前に、話し合いの目的や内容、目指すゴールを確認しよう。
- ② 役割を決めて話し合おう。

・司会者・参加者に発言をうながしたり、発言の似ている点やちがう点を確認したりして、話し合いがまとまるように進行する

・参加者・話し合いの流れをふまえて、理由をつなげて意見を言う
- ③ 友だちの意見と自分の意見の似ているところやちがうところを見つけ、自分の考えをまとめよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年用

話し合いのポイント

- ① 話し合いを始めるとき
 - ・目的や話題、話し合いの進め方、テーマに対する互いの立場などを確認しよう。
 - ※本や新聞、インターネットなどから根拠となる情報を幅広く集めておくこと充実した話し合いになるよ。
- ② 話し合うとき
 - ・聞き手から反論されたり意見が求められたりすることを予想して意見を述べ合おう。
 - ※他の人と自分の意見との共通点、相違点などをメモしながら聞くということです。(司会者は各立場の意見の共通点や相違点をメモしておこう。)
- ③ 話し合いをまとめるとき
 - ・それぞれの立場や仲間がなぜそのような意見を述べているのかを理解し、共通点や相違点、話し合いの中での新たな提案をもとにしながら結論に向かって話し合いをまとめていこう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

話し合いのポイント

- ① 始める前に、話し合いの内容、順序、時間配分、目的やゴールを明確にしよう。
- ② 意見を述べるときは、自分の立場(賛成、反対など話題に対する考え)と、その理由を明確にしよう。
- ③ 話し合った後は、異なる意見も生かすようにしながら、自分の考えをまとめよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年用

話し合いのポイント

- ① 話し合いを始めるとき
 - ・司会者、提案者、参加者などそれぞれの立場で目的に沿った話し合いの仕方や流れを確認しよう。
- ② 話し合うとき
 - ・進み具合や流れを振り返りながら結論に向かって話し合いを進めていこう。
 - ・話し合うべきポイントが複数あるときは、下記のように話し合いを進めよう。
 - ※全体に関わる大きな論点 → 具体的な論点へ
 - ・各自の意見を選び付けたり、必要な意見を取捨選択したりして、よりよい結論を目指していこう。
- ③ 話し合いをまとめるとき
 - ・異なった立場や考え方がある場合にも、お互いの違いを認めつつ、共通点や新たな考え方を導き出していく中で考えを深めていこう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

ざいりょうあつめ・かくことをきめる

まとめるときのポイント

①書(か)くざいりょうをあつめるとき

- ・つぎのことから、ざいりょうをあつめよう。

- ・したこと
- ・見たこと(大きさ、色、形)
- ・かんじたこと(気持ち)
- ・気づいたこと
- ・ぎもんに思ったこと など

②書(か)くことをきめるとき

- ・あつめたざいりょうから、書(か)きたいことをきめよう。
- ・じゅんじょにそって書(か)くじゅんばんをきめよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に

- ・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき

- ・目的に応じて材料や情報を集めるときは、下記の手段を参考に必要な材料や情報を収集しよう。

【情報を収集する手段の例】

- ・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
- ・音声や映像・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき

- ・収集した材料は、比較しながら取捨選択したり、種類ごとに分けたり(複数の語句を線でつないだり、線でくったりしながら)してみよう。
- ・原因と結果、意見と根拠などの関係を見つけ、レポートをまとめるために整理しよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①書くために必要な情報を集めるとき

- ・相手や目的を明確にしよう。

- ・誰に対して書くのか
- ・何のために書くのか
- ・読み手はどのようなことを知りたいのか など

②集めた材料を選ぶとき

- ・情報を整理して、目的に応じた情報を選ぼう。

- ・共通点や相違点に着目して分ける
- ・共通する性質に基づいて分類する

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に

- ・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき

- ・根拠となる情報や材料は下記の手段を参考に様々な方法を活用して幅広く収集しよう。

【情報を収集する手段の例】

- ・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
- ・音声や映像・インタビュー・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき

- ・収集した材料や情報は、目的に応じて比較しながら取捨選択したり、種類ごとに分けたりしよう。(複数の語句を線でつないだり、線でくったりするといふ。)
- ・原因と結果、意見と根拠などの関係付けをしながら整理し、様々な角度から検討して、伝えたいことを明確にしよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①書くために必要な情報を集めるとき

- ・目的や意図を明確にしよう。

- ・誰に対して書くのか
- ・何のために書くのか
- ・読み手はどのようなことを知りたいのか など

②集めた材料を選ぶとき

- ・情報を整理して、目的に応じた情報を選ぼう。

- ・優先順位を考えて並べる
- ・賛成、反対の両方の立場の情報を分析する
- ・情報を互いに結び付けて関係を明確にする

【情報を収集する対象・手段の例】

- ・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
- ・音声や映像・インタビュー・アンケート など

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年用

情報収集・整理編

レポート作成のポイント

①レポートの情報を集める前に

- ・何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかなどをはっきりさせよう。

②材料を集めるとき

- ・根拠となる情報や材料は下記の手段を参考に様々な方法を活用して集めよう。
- ・材料を集めるときは、より客観性や信頼性の高い適切な情報を収集しよう。

【情報を収集する手段の例】

- ・本・文章・パンフレット・リーフレット・雑誌・新聞
- ・音声や映像・インタビュー・アンケート など

※集めた資料は出版社・出版年・URL・見た年月日・アンケート対象者の所属・回答数など記録しておこう。

③集めた材料を整理するとき

- ・収集した情報は、種類ごとに分けよう。(複数の語句を線でつないだり、線でくったりするといふ。)
- ・原因と結果、意見と根拠などの関係付けをしよう。
- ・情報がたりなければ、根拠となる情報を、再度収集することも大切だよ。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

書(か)くとき

まとめるとき のポイント

- かん字やひらがな、カタカナを正しく書(か)こう。
- 文のおわりには。(くてん)をつけよう。
- 文をわかりやすくするために、(とうてん)をつけよう。
- 会話文(かいわぶん)には、「」(かぎ)をつけよう。
- はじめー中ーおわり のくみ立てをかんがえて書(か)こう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- レポート作成をするときは、何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかを確認し、取捨選択した材料や情報を自分の考えが伝わるように構成を工夫して書こう。
- 自分の伝えたいことが伝わるように、複数の具体例(事実)を(項目に分けて)あげながら、根拠を明確にして書き表そう。

【例】

1. テーマ・課題について	2. 調べた方法
3. 実験・調査の結果・事実(I II III)	
4. まとめ(考え・意見)	
5. 参考資料 など	

- 自分の考えや意見を、その根拠となる「確かな事実となる根拠」に基づいて書こう。
(事実となる根拠→意見)

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- 文字の表記などに気をつけて書こう。
・漢字や仮名 ・送り仮名のつけ方 ・改行の仕方
・(とうてん)や。(くてん)の打ち方
- 文章を正しく、分かりやすく書こう。
・主語と述語の関係 ・「こ・そ・あ・ど言葉」
- 自分の考えが明確になるように書き表し方をくふうしよう。
・理由を書こう
「なぜかという～」「その理由は～」「～ためである。」
・例をあげて説明しよう。
「例えば～」「事例をあげると～」「～などがそれに当たる」

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- レポート作成をするときは何のために、どのようなテーマ・内容で書くのかを確認し、取捨選択した材料や情報を自分の考えが伝わるように構成を工夫して書こう。
- 構成を工夫するときは、説得力が増すように考えや意見の根拠となること(実験の結果・事実)を、ナンバリングなどして項目に分けて具体的に書き表そう。

【例】

1. テーマ・課題について	2. 調べた方法
3. 実験・調査の結果・事実(I II III)	
4. 考察(考え・意見)	5. 参考資料 など

- 根拠を書くときには、下記のことを考えながら書くといいですよ。
I 確かな「事実や事柄」に基づいたもの(データ)になっているかな？
II 「事実や事柄」と自分の考えがしっかりつながっているかな？ など

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- レポート作成の目的や意図に応じて、詳しく書く内容と簡単に書く内容を判断しよう。
- 自分の「感想や意見」と、その裏付けとなる「客観的な事実」を区別して書こう。
- 自分の伝えたいことが伝わるように、「引用」したり、「図形やグラフ」等を用いたりして、書き表し方を工夫しよう。
【文章や図形、グラフ等を用いた場合】
引用した資料名を書くことが必要です。本から引用した場合は、著者名・書名・出版社名・発行年を書きます。
- 伝えたいことが伝わるように、全体の構成や割り付けを工夫しよう。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年用

記述編

レポート作成 のポイント

- レポート作成の目的に応じて、文体や簡潔な述べ方と詳しい述べ方、事実と意見の関係などに気付けて構成を工夫しよう。
- 目的に応じて、内容のまとまりごとに見出しをつけたり、番号をふったり、注釈をつけるなど表現の仕方を工夫しましょう。

【例】

1. テーマ・課題について	2. 調べた方法
3. 実験・調査の結果・事実(I II III)	
4. 考察(考え・意見)	5. 参考資料 など

- 自分の考えの根拠としてふさわしい資料を引用したり、自分の考えとの関係について補足したりすることが大切です。引用の際には下記のように出典の明示、図表などを引用する際には「図1は」など本文との関連を示しましょう。
【文章や図形、グラフ等を用いた場合】
引用した資料名を書くことが必要です。本から引用した場合は、著者名・書名・出版社名・発行年を書きます。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校低学年用】

【中学校第1学年用】

名人シート 小学校低学年用

推敲のチェックポイント

○ 一文一文、ていねいに読(よ)みかえしましょう。

- ・書(か)いてある字は正しいですか。
 ・かん字、ひらがな、カタカナ ・小さい「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」
- ・ぬけている字はありませんか。
- ・くてん(。), どうてん(。), かぎ(「」)のつかいかたは正しいですか。
- ・「は」「を」「へ」のつかいかたは正しいですか。

じぶんが書(か)いた文しょうを声に出して読(よ)んでみると、まちがいに気づくことがあります。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校1学年用

推敲のチェックポイント

○ 文章全体を見て、読み手の立場に立って、伝えたいことが伝わるかを確認めよう。

- ・漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- ・文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- ・句読点などの符号の使い方は適切かな。
- ・語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- ・段落の順序やつながりが適切であるかな。
- ・主語と述語がねじれていないかな。
- ・一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- ・より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- ・比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校中学年用】

【中学校第2学年用】

名人シート 小学校中学年用

推敲のチェックポイント

○ よりよい表現になるように、書いた文章を読み返しましょう。

- ・学習した漢字が正しく使われていますか。
- ・主語と述語がねじれていませんか。
- ・「は」「を」「へ」の使い方は正しいですか。
- ・文の終わり方はそろっていますか。
 ・じょう体・・・「ーだ。」「ーである。」
 ・けい体・・・「ーです。」「ーます。」
- ・相手や目的に合った表現になっていますか。
 ・だれに向けて書いているか。
 ・何のために書いた文章なのか。
- ・内容のまとまりごとに、段落を分けて書いていますか。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校2学年用

推敲のチェックポイント

○ 文章全体を見て、読み手の立場に立って、伝えようとしていることが伝わるかを確認めよう。

- ・説明や具体例、描写は、伝えたいことを伝えるために適切かな。
- ・漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- ・文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- ・句読点などの符号の使い方は適切かな。
- ・語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- ・段落の順序やつながりが適切であるかな。
- ・主語と述語がねじれていないかな。
- ・一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- ・より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- ・比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

【小学校高学年用】

【中学校第3学年用】

名人シート 小学校高学年用

推敲のチェックポイント

○ 文章全体の構成や書き表し方に着目して、書いた文章を見直しましょう。

- ・学習した漢字が正しく使われていますか。
- ・主語と述語がねじれていませんか。
- ・語句の係り方や語順は、分かりやすいものになっていますか。
- ・一文が長すぎませんか。あるいは、短すぎませんか。
- ・より分かりやすい言葉に置き換えることはできませんか。
- ・比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできませんか。
- ・文章全体を見て、内容や表現はそろっていますか。
- ・書く目的に照らして、適切な構成や内容ですか。
- ・事実と感想、意見とが区別されていますか。
- ・引用の仕方、図表やグラフ等の用い方は適切ですか。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

名人シート 中学校3学年用

推敲のチェックポイント

○ 文章全体を見て、書く目的や意図に応じた表現になっているかを確認めよう。

- ・説明や具体例、描写は、伝えたいことを伝えるために適切かな。
- ・漢字・仮名遣い・送り仮名が正しく使われているかな。
- ・文体が常体が敬体かで統一されているかな。
- ・句読点などの符号の使い方は適切かな。
- ・語句の使い方、係り方や語順は、分かりやすいものになっているかな。
- ・段落の順序やつながりが適切であるかな。
- ・主語と述語がねじれていないかな。
- ・一文が長すぎ、あるいは、短すぎないかな。
- ・より分かりやすい言葉に置き換えることはできないかな。
- ・比喩や反復、倒置など、表現の工夫はできないかな。

授業力向上図鑑プロジェクトチーム作成

国語科の授業づくりQ&A

「国語の授業って、どうつくればいいの？」

現場の先生方から、よく聞かれます。内容教科でないことが、その一因であると思います。ここでは、「今さら聞けない」「今こそ聞きたい」国語科の授業づくりのポイントについて、本改善策のこの後の内容と関連付けながら示します。

Q 1

教材研究は
どうやればいいの？

Answer

国語科は教科書「を」教えるのではなく、**教科書「で」教える**教科です。その教材でどのような力を身に付けさせるのかという点を意識し、常に指導事項を確認しながら教材研究をすすめましょう。 P20<Step1>へ Go！

Q 2

どんな言語活動を
設定すればいいの？

Answer

単元の指導事項に合った言語活動を設定しましょう。**子どもの実態**に合わせて、やってみたい！と思わせるような活動を設定しましょう。 P20<Step2>へ Go！

Q 3

話し合ってどうさせ
ればいいの？

Answer

考えを一つに絞るのか、意見を交流して考えを広げるのかなど話し合いのゴールを明確にし、子ども自身がそのゴールを自覚していることが大切です。**話し合いの目的によって人数や形式**が変わります。 P21<展開>へ Go！

Q 4

1時間の授業のまとめは必要なの？

Answer

子どもたちが解釈した内容を一つに絞るような、板書するためのまとめは必要ありません。授業の終末に、もう一度考える場面を設定するなど、子どもたち一人一人が課題に対するまとめを行えるようにしましょう。また、**目標に正対させて、振り返り**を行いましょう。

P21<終末>へ Go！

Q 5

国語の評価は
どうすればいいの？

Answer

指導事項と照らし合わせて、**教師側で明確な基準をもっておくこと**が大切。くれぐれも教師の感覚による評価にならないようにしましょう。 P23<課題解決のPOINT>へGo！

Q 6

国語で身に付けた力が
他の教科で使えるように
するためには？

Answer

他の教科のねらいを達成するために**国語で身に付けた力を意図的、効果的に活用できる**ようカリキュラム・マネジメントの視点で他の教科の年間指導計画や単元の配列に目を向けてみましょう。 P24へGo！

Q 7

発問に対し、教師側の意図
や予想とは違う答えが返
ってくることが多い。どう
したらいいの？

Answer

子どもは教師側が想像もしなかった答えを出すことがあります。予想外の答えをした子どもに**なぜそのように考えたのか説明を求めたり、良い答えと比較してどの部分が欠けているのかなどを解説し、納得させてあげたりする**といいですね。

Q 8

並行読書は、どのよ
うにやればいいのか？

Answer

並行読書が目的ではありません。**指導事項を身に付けさせるために**、教科書教材と関連した本や文章を読むことが効果的な場合には、ねらいに合わせて選書して、取り入れるようにしましょう。選書については、学校司書に相談してみるのもよいでしょう。

Q 9

全文掲示はどのよう
に取り入れればいいのか？

Answer

全文掲示が目的ではありません。場面や段落ごとの内容を詳細に読み取るのではなく、**文章全体に何が書かれているかを捉えたり、複数の叙述を関連付けたりすること**に効果的な場合は、実態に応じて取り入れるようにしましょう。

単元編

国語科の授業づくりのステップ

Step1

目標とゴールの明確化（指導事項の明確化）

各学校の教育課程からその単元で身に付けさせたい指導事項を明確にし、単元の目標を設定しましょう。複数の指導事項が示されている場合は、重点を置く指導事項を決め、身に付けさせたい力をより焦点化することが大切です。

あわせて、その目標を達成した児童生徒のゴールの姿を明確にしましょう。単元の終末における理想の振り返りを具体的にイメージすることで、身に付けさせたい力やその力を身に付けさせるために必要となる手立てが明らかになります。

指導事項

単元の目標

単元のゴール

Step2

単元を通して行う言語活動の設定

単元を通して、Step1で明確にした目標とする力を身に付け、目指すゴールの姿へ到達させるための言語活動を設定します。言語活動を設定するには右の4つのポイントに留意することが大切です。

言語活動が決まったら、指導者自身がその言語活動を実際に行ってみることが重要です。実際に行うことで、児童生徒がつまずきそうな点を知ることができ、そのための手立てを工夫することにつながります。単元の導入で学習モデルとして児童生徒に提示することも見通しをもたせるために有効な手立てとなります。

身に付けさせたい力が身に付く言語活動

「やってみたい」、「面白そうだ」を喚起する言語活動

児童生徒の実態を踏まえた言語活動

汎用性があり、生活場面で活用可能な言語活動

Step3

単元の指導計画の作成

第1次では、児童生徒の興味・関心を高める工夫をしたり、学習モデルを提示するなどして単元の見通しや学習への必要感をもたせたりすることが大切です。

第2次では、単元を通して行う言語活動と結び付いた学習活動を通して、単元の目標となる言葉の力を身に付けさせることが必要です。言語活動自体が目的化しないよう、各時間において、どの指導事項を指導するのかを明確にすることも大切です。

第3次では、単元を通した作成物や表現活動を交流したり、改めて見直したりすることで、自分にどんな力が身に付いたのか、何ができるようになったのかを明らかにさせることが大切です。また、身に付けた力を活用できる場面をイメージさせることにより、今後の学習や生活場面に生かそうとする態度を育むことも大切です。

第1次

- 単元の見通し
- 必要感・意欲化

第2次

- 単元を通した言語活動との関連
- 指導事項の明確化

第3次

- 身に付けた力の自覚
- 活用しようとする態度

本時編

国語科の授業づくりのステップ

導入

本時の見通しをもたせる

単元の目標を達成するための本時の目標を設定し、目標の達成につながる学習課題を設定します。本時の目標を設定する際は、どの指導事項に基づくかを明確にすることが必要です。また、全ての児童生徒が達成できるよう、1時間の目標は1つの指導事項に絞ることが大切です。

児童生徒に学習課題を提示する際には、単元の学習計画表等を使って、単元全体の課題解決のために本時がどのような意味をもつかについて意識させることも大切です。

課題の設定に当たっては、「〇〇しよう」という活動のみを示すのではなく、学習活動の方法と目的に加え、目標の達成に向けた手立てを明確にすることにより、「できそうだ」「やってみたい」という意欲が高まり、主体的な学びの実現につながります。

モデルの提示

グッドモデルやバッドモデル、エラーモデルなどを示すことにより、学習活動の方法や本時の課題解決に向けた視点を明確にし、見通しをもたせることができます。

条件の明示

課題設定の際、例えば次のような条件を明らかにすることにより、課題解決の視点が明確になります。

- 考えとその根拠を明確にする
- 字数を制限する
- 資料から引用する
- 複数の叙述を根拠とする

5つの言語意識

見通しをもたせる際、次のような言語意識をもたせることも大切です。

- ①目的意識
- ②相手意識
- ③方法意識
- ④場面・条件意識
- ⑤評価意識

展開

課題を解決させる

展開場面では、課題の解決に向けて、個人で思考する場面とともに、対話を通して考えを広げ深めることが大切です。

また、交流の後、自分が一度、言葉で表現したり理解したりした内容を改めて捉え直すことにより、考えを深めることにつながります。

学習形態

ペア、グループ、全体などねらいに合った学習形態を取り入れることが大切です。その際、方法や目的、条件などの視点を明らかにしてから活動させましょう。

発問・指示

児童生徒の思考の状況に応じて、新たな視点を示したり、課題解決に向けて方向付けたりすることが大切です。

終末

身に付けた力を自覚させる

終末場面においては、課題に対する最終的な自分の考えをまとめたり、できるようになったことを表現したりする場面を設定することが大切です。これらは、児童生徒一人一人が異なるものであるため、全体で一つの「まとめ」に収束させることに固執する必要はありません。そのようなまとめの後、1時間の学びを通して、本時の目標と正対して自分にどのくらい力が付いたか、何ができるようになったかを自覚できるよう振り返らせましょう。そのためには、導入場面で児童生徒に本時のゴールの姿を明確にしておくことや、振り返りを行う際に教師が観点を明示することが大切です。また、児童生徒が授業の冒頭と終末における自分の変容を視覚的に捉えられるよう工夫することも大切です。

国語科の授業改善のポイント

P20, 21の「国語科の授業づくりのステップ」に合わせて、授業づくりを行いましょう。

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善のポイント

導入

見通し

活動や方法のみにとどまらず、「できそうだ」「やってみたい」という意欲を高められるよう、目的意識や必要感をもたせる工夫をしましょう。

展開

対話

対話や交流自体が目的化しないよう留意し、目標の達成に向け、考えが広がったり深まったりするよう、論点を設定しましょう。

終末

振り返り

目標に正対し、身に付けた力を実感したり、その力を今後に生かそうとする意欲をもったりできるよう、観点を明確に示しましょう。

授業例

小学校第5学年「わらぐつの中の神様」P200

Step1

指導事項を基にして
焦点化しましょう。

Step2

身に付けさせたい力を
付けるのに最適な言語
活動を設定しましょう。

単元を
通して身に
付けさせたい
力

- 物語の構成要素に着目し、物語のおもしろさに気付きながら読む力

第一
次

1時間

<主な学習活動>

- ①自分が選んだ物語のおもしろさを伝え合うブックトークに興味をもち、単元の学習の見通しをもつ。

単元を通して
行う言語活動

ブックトークで物語のおもしろさを伝え合う。

見通し

教師がモデルを示すなどして単元を通した言語活動である「ブックトーク」への興味や見通しをもたせ、「やってみたい」という気持ちを高めます。また、ブックトークに必要な力を身に付けるため、第2次の学習の必要感をもたせます。

Step3

展開

対話

第3次でのブックトークを関連付けながら、それぞれの時間において指導事項を焦点化して目標を設定しましょう。(ブックトークを行うための「作業」にならないよう注意しましょう) また、目標の達成に向けて対話する場面を意図的・計画的に設定しましょう。

Step3

終末

振り返り

ブックトーク自体が目的ではありません。単元の目標に正対させて、言葉の力が身に付いたことを実感させるとともに、その力を活用しようとする態度を育みましょう。

第二
次

4時間

- ②教材文を読み、登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える。

- ③④⑤ 題名、人物、物語の構成、表現の効果を視点に、教材文のおもしろさについて考えをまとめる。

第三
次

2時間

- ⑥⑦ 自分が選んだ物語のおもしろさについて、考えをまとめ、ブックトークで伝え合う。

本時の目標

叙述に着目して、題名「わらぐつの中の神様」に込められた
作者の意図について自分の考えをもつことができる。(3/7時間目)【読むこと エ】

課題解決のPOINT

条件に基づいて書くことができているかを確実に評価することで、叙述から根拠を明確にして、自分の考えをまとめる力を育む。

「題名で表したかったもの」と「根拠となる叙述」を紐付けながら、複数の意見を関連付けたり、統合したりするなどして考えを整理します。

違う題名の案とその理由についてフリートークすることを通して、本時の課題の必要感を生み出します。
また、本時の流れ、ゴールの姿、課題解決の条件を明確にすることで1時間の授業の見通しをもたせます。

⑤

指示 確認をします。条件の①に当たるところには、赤鉛筆で直線を、二文目以降の「文中の言葉」には波線を引きましょう。
2種類の線が引けた人は手を挙げなさい。→全員、今日のめあてが達成できましたね。

③

(状況に応じて)

発問 違う視点で考えた人はいますか。

【視点を転換する】

発問 「神様」という言葉に着目した人はいませんか。

【視点を転換する】

①

発問 もし、自分がこの物語に違う題名を付けるとしたら、どんな題名を付けますか。理由と併せて交流してみましょう。

ふりかへり

①どのようなことに気を付けて、自分の考えをまとめることができましたか。
②今日の考えを、どのようにブックトークに生かそうですか。

自分の考え

○相手の思いやる心の美しさ
○物を大切にすることの価値
○家族が仲良くすることの尊さ
○一生懸命仕事をすることの大切さ
○わらぐつのよさ
○格好が悪くても、はく人がはきやすい
○使う人の身になって……
○いい仕事つてもんだ
○心を込めて作ったものには神様が入って……
○それを作った人も神様の美しさ
○雪がたの中にも神様が
○雪がたの中にも神様が
○雪がたの中にも神様が

みんなの考え

自分の考え

めあて

作者が題名で表したかったものは何か、自分の考えをもとう。

違う題名を考えるとしたら……

わらぐつの中の神様

・そのわらぐつ、くれない
・不細工なわらぐつ
・大工とおみつ
・わらぐつと雪がた

【条件】①題名で表したかったもの↓一文目
②その理由を文中の言葉を使って
↓二文目以降

⑥

指示 観点に沿って、今日の学習を振り返りましょう。

児童がじっくりと思考してまとめる場面や、できたことを自覚できる場面、できるようになったことを生かそうとする意欲を高める場面を設定します。

④

指示 素晴らしい考えがたくさんあがりました。はじめに書いた自分の考えと比べて似ているところと違うところを探してみましょう。

【共通点・相違点に着目させる】

指示 めあてについて、最終的な自分の考えをノートにまとめましょう。忘れてはいけないことは何だったでしょうか。

【条件を明確化する】

②

説明 今日の授業では、まず自分で考えてみましょう。その後、交流を通していろいろな考えを共有してから、最終的な自分の考えをまとめます。

決まった正解はありません。自分の考えとその根拠を書くことができれば、めあては達成です。交流を通して、より自分が納得できる考えに深めることができるとよいですね。

言葉の力を育むカリキュラム・マネジメント

言語能力は、学習の基盤となる資質・能力であり、国語科を要としつつ、教科等横断的に身に付けさせる必要があります。そのためには、国語科を中心としてカリキュラム・マネジメントの充実を図ることが大切です。

授業者として、校内の学力向上担当者として、教務担当者として、管理職として、様々な立場からカリキュラム・マネジメントを進める際の視点となる「6つのS」を示しました。

6つのS

目的（考え方）

方法（具体的実践）

チェックポイント

取材する

改善・解決したい課題の明確化から始まる

- 実態の取材を通して、課題や方策を具体化する
- 国語科を中心としつつ、他教科等の言葉の実態を取材する

- 学校評価、保護者・児童生徒アンケート
- 全国学力・学習状況調査
- チャレンジテスト
- 単元テスト、定期テスト
- 知能検査、CRT、道徳性検査
- 校内児童生徒理解研修
- ノート、レポート 等

- 学校で共有できる「言葉の力」をイメージしているか
- 自校の「言葉の力」の実態は、他教科等の工夫の成果であることを共有できているか
- 課題の背景・原因を日常生活や他教科の実践にも求め、掘り起こそうとしているか

焦点化する

課題を踏まえた目標設定には焦点化が必要

- 検証・反省を行うため、課題を焦点化する
- 学習指導要領の目標・観点別評価・「見方・考え方」・校長の方針等を視点とする

- 校内研修等でKJ的操作などにより構造化
- ※児童生徒の将来にとって重要な「言葉の力」とは何か、という問いに対する答えとして
- 特色ある学校づくりや生徒指導との関連 等

- 「学校の意味」といっていいほどの意義・価値を有する目標であるか
- 目標の内容や項目数は整理されており、理解が容易であるか
- 国語科や他教科・他領域の願いに共通する部分が焦点化されているか

浸透する

目標の実現には、方向性や方法の浸透が必要

- 何を実現したいのかを簡潔で魅力的な言葉で整理する
- 児童生徒、保護者、教職員、それぞれに分かりやすい工夫をする

- 【教職員】各種会議、校内研修、学年部会、教科部会、日常実践等
- 【児童生徒】教科ガイダンス、通信、各種集会等
- 【保護者】PTA総会、参観日、懇談会、学校通信、学年通信 等

- 浸透させる文言には、対象者をその気にさせる工夫があるか
- なぜその方向性であるか、根拠は明確であり、分かりやすいか
- 方向性には、児童生徒の心をゆさぶるおもしろい（興味深い）実践が見え隠れするか

○下記の「6つのS」は、順序を示すものではありません。また、サイクルのような一定の繰り返しを表すものでもありません。

○例えば「取材する」は、年度当初だけ行えばよいというものではなく、定期的あるいは不定期的に、1年を通して機能させねばならないものです。

○一定の方向性や方針の下、組織的かつ具体的な取組を通して、目標を達成する「STORYを描く」ことが大切です。その途中に「挫け」があったとき、教室の指導者として、組織の経営者として、理性的で合理的な再スタートを切ることができるよう、リーダーシップを発揮することが、マネジメントを進める上で重要になります。

組織化する

目標実現に向け、組織の仕組みを位置付ける

- 属人的な発想では短期間かつ限定的にしか成功しない
- 取組が継続的・組織的に推進される仕組みを作る

- 教科担当、学年、分掌等の連携の具体化・システム化
- 国語科のみならず、他教科に活用できる規準の開発
- 教育課程への位置付けや改善の仕組み作り等

- 組織的に継続・安定して取組を推進できるプランとなっているか
- 他教科・領域等で、何に取り組み、努力すればよいか、理解されているか
- 教育課程にどのように位置付け、改善するかの手立てが明らかになっているか

新展開する

モチベーションの向上には新たな展開が必要

- 先例をなぞるだけでは、組織や人の活力は衰える
- 他教科との連携の中で言葉の力を高める視点からの評価・改善を行う

- 自校の児童生徒にとって一層必要な言葉の力の探究・明確化
- 言葉の力の向上を図る場面及び教師の働きかけの具体の洗練
- 言葉の学びからの授業改善が、他教科等の学びにどう生かされたかの評価等

- 育成を目指す言葉の力は、児童生徒に将来必要となる力であるか
- 小中学校9年間を見通した、中長期的な視点から授業づくりがなされているか
- 児童生徒が、言語生活を楽しむための底力としての言葉の力は身に付きつつあるか

STORYを描く

努力の向こうにあるSuccess Storyを描く

- 将来の生活のあらゆる場面を支える言葉の力を育む
- 単元・年間・9年間の学びを通して、身に付ける確かな見通しをもつ

- 他教科・領域等における書き言葉表記等様子の観察と分析
- 日常会話等話し言葉の様子の観察と分析
- 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙調査
- 単元テスト、定期テスト、チャレンジテスト等

- テスト結果の反省を得点等の数値だけでなく、豊かな言語生活を目指す取組として児童生徒に投げかけているか
- 必然性をもって話し合い等の言語活動に取り組ませているか
- 将来の職業人・社会人としての技術やマナーと結び付けて価値付けることができるか

深い学びに導く発問・指示 ~教師の言語技術~

授業において、児童生徒の思考を深めさせたり、思考が停滞した状況を改善させたりするためには、教師の発問・指示が重要であり、このことは、国語科に限らず教科等横断的に活用できる教師の言語技術です。

児童生徒を深い学びに導くために、授業づくりの際、又は実際の授業場面において状況に応じて活用することが、どの教科の指導においても大切です。

児童生徒の思考の状況	教師のねらい	言語技術	具体的な発問・指示
思考の方向性にズレが生じている	○目標・目的を想起させたい ○目的と手段を区別させたい	総括的に見通しをもたせる	○この時間は、何ができるようになればよいのだったかな？ ○この単元では、どんなことにたどり着きたいのだったかな？ ○何の目的で話し合いをしていたのだったかな？ 例) みんなが全校朝会でこの発表をする目的は何だったかな。P 7
課題に対する思考にズレが生じている	○複数条件を明確化したい ○複数条件とする必要性や必然性に気付かせたい	条件を明確化する	○忘れてはいけないことは、何と何かな？ ○条件が1つの場合と、2つの場合でどんな違いが生まれるかな？ 例) 沖縄県のことを伝えるリーフレットにするために、欠かせない条件はなんですか。P 4
課題に対する思考が浅い	○仮定を与え、変化を想像させたい ○仮定を吟味し、予想させたい	仮定する	○仮に～であったなら、どう変わるだろうか？ ○～だった場合と、…だった場合を考えると、どのようなことが想定されますか？ 例) もし自分がこの手紙を受け取った立場だとしたら、どう感じるだろうか。P 11
課題に対する思考が停滞している	○視点を与え、想像させたい ○対話等により、新しい視点や認識を発見させたい	視点を転換する	○～だったら、どう考えられるだろう？ ○例えば～で考えてみたら、どう思う？ ○別の視点から見た人や、新たな考え方を見付けた人はいないかな？ 例) 「神様」という言葉に着目した人はいませんか。P 23
課題に対する思考が停滞している	○両者の変化を動的に捉えさせたい ○両者の関係性を見付けさせたい	関係性に着目させる	○～を変化させると、…はどう変わるだろうか？ ○～の変化に、…はどのように関係しているだろうか？ ○両者の変化の様子から考えると、～と…はどのような関係といえるだろうか？ 例) 自分が考える「儀兵衛の生き方」に関する情報はどれですか。P 3
複数の意見から、自分の考えを深められていない	○比較して違いを明確にさせたい ○共通点を見いだして考えを確かなものにしたい	共通点・相違点に着目させる	○2つの考え方の違いをはっきりさせよう。どのような違いがあると言えるかな？ ○(友だちの発表を聞く際)自分と同じ考えだったらその部分に線を引き、違う考えだったら要点をメモしよう。 例) (たくさん出た意見の中から)自分の考えと比べて、似ているところと違うところを探してみましょう。P 23
複数の意見から、自分の考えを深められていない	○焦点化し、序列を付けさせたい ○根拠をもって選ばせたい	焦点化する	○重要な順に整理して番号を付けなさい。 ○この中で最も条件に適しているものはどれですか？ ○～の視点でみたとき、最もよいと感じる考えはどれですか？それは、なぜですか？ 例) 今日の推敲は、漢字のチェックを最重点にします。P 6

【あさひかわ】国語学習プリント

過去13回の全国学力・学習状況調査の結果分析から、本市の児童生徒に課題が見られる内容に関わる学習プリントを作成しました。これらの内容は、当該単位において学習した際には理解できているものの、その後の反復的な学習の機会が十分に得られなかったことが課題となった原因の1つと考えられます。

旭川市HPからダウンロードして、必要なプリントのみを印刷することができますので、当該単元の学習後、長期休業中や学期末・年度末など様々な機会において、児童生徒の実態に合わせて御活用ください。

これまでの調査結果から明らかになった旭川市の子どものための課題となっている内容について、出題しています。
様々な機会に、繰り返し取り組むことが大切です。

あさひかわ 国語プリント⑦ 「手紙」 小学校五年生以上

□ 旭川中学校の工藤さんは、総合的な学習で「職業体験学習」をさせてもらった旭川市で、
「手紙」を書きました。次の「幼稚園への手紙」を読んで、課題を答えよう。

拝啓
日々に秋が深まる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて、先日は私たちの職業体験学習にご協力いただきありがとうございました。
初めて園児に接したときには、緊張のあまり「おはよう」と言えませんでした。
しかし、先生方の園児への接し方を見ていたおかげで、園児と元気に挨拶を交
わせ、笑顔で接することができるようになりました。
今回の経験を生かし、自分の将来について考えていきたいと思っています。
これからも、皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。

一 A に入る言葉を次の1から選び、()に数字を書きこめよう。
1 かじ 2 職員 3 早々
二 B C D に入る内容をそれぞれ次の1から選び、
()に数字を書きこめよう。
1 自分の名前 2 相手の名前 3 日付
三 E に入る内容をそれぞれ次の1から選び、()に数字を書きこめよう。
1 様 2 御中 3 行方

旭川市十勝支庁 三好市 三好市立三好小学校
デザイン株式会社 E

解答編もある
ので、自学にも
活用すること
が可能です。

取り組むことが可能な学年が「〇
年生以上」と示してあり、目安と
なりますが、どのプリントも中学
生にとっても大切な内容です。

「平成30年度全国学力・学習状況調査 結果報告書」から、昨年度作成した15枚の学習プリントをダウンロードすることができます。

「平成29年度全国学力・学習状況調査 結果報告書」から、「【旭川市版】漢字学習プリント」をダウンロードすることができます。

あさひかわ 国語プリント 「手紙の後付け」 小学校五年生以上

□ 旭川小学校の田村さんは、総合的な学習で「職業体験学習」をさせてもらった旭川市で、
「手紙の後付け」を書きました。次の「幼稚園への手紙」を読んで、課題を答えよう。

拝啓
日々に秋が深まる季節となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて、先日は私たちの職業体験学習にご協力いただきありがとうございました。
初めて園児に接したときには、緊張のあまり「おはよう」と言えませんでした。
しかし、先生方の園児への接し方を見ていたおかげで、園児と元気に挨拶を交
わせ、笑顔で接することができるようになりました。
今回の経験を生かし、自分の将来について考えていきたいと思っています。
これからも、皆様のますますのご活躍をお祈りいたします。

一 A に入る言葉を次の1から選び、()に数字を書きこめよう。
1 かじ 2 職員 3 早々
二 B C D に入る内容をそれぞれ次の1から選び、
()に数字を書きこめよう。
1 自分の名前 2 相手の名前 3 日付
三 E に入る内容をそれぞれ次の1から選び、()に数字を書きこめよう。
1 様 2 御中 3 行方

旭川市十勝支庁 三好市 三好市立三好小学校
デザイン株式会社 E

【旭川市版】漢字学習プリント(同音異義語)～小学生用 No.1

問題	解答
人エいせいを打つ上げる。	正答
いせい的な生活を。	衛生
いせい中。	衛生
参加しようは小学生。	対象
たいようデモクラシー。	大正
団体のたいしを。	大賞
く日本レコードたいし。	治める
国を。	収める
カノオにおさ。	納める
税金を。	

小学校・中学校学習指導要領 国語 指導事項一覧

〔知識及び技能〕（１） 言葉の使い方に関する事項

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年
言葉の働き	ア 言葉には、事物の内容を表す働きや、経験したことを伝える働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。	ア 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気付くこと。		ア 言葉には、相手の行動を促す働きがあることに気付くこと。	
話し言葉と書き言葉	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。 ウ 長音、拗音、促音、撥音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。	イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。 ウ 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つこと。また、第3学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くこと。	イ 話し言葉と書き言葉との違いに気付くこと。 ウ 文や文章の中で漢字と仮名を適切に使い分けるとともに、送り仮名や仮名遣いに注意して正しく書くこと。	ア 音声の働きや仕組みについて、理解を深めること。	イ 話し言葉と書き言葉の特徴について理解すること。	
漢字	エ 第1学年においては、別表の学年別漢字配当表（以下「学年別漢字配当表」という。）の第1学年に配当されている漢字を読み、漸次書き、文や文章の中で使うこと。第2学年においては、学年別漢字配当表の第2学年までに配当されて	エ 第3学年及び第4学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当され	エ 第5学年及び第6学年の各学年においては、学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むこと。また、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当され	イ 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、	ウ 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字程度から450字程度までの漢字を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使うこと。	ア 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。また、学年別漢字配当表に示されている漢字について、文や文章の中で使い慣れること。

	いる漢字を読むこと。また、第1学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第2学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	ている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	ている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと。	文や文章の中で使うこと。		
語彙	オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。	オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。	ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	エ 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。	イ 理解したり表現したりするために必要な語句の量を増し、慣用句や四字熟語などについて理解を深め、話や文章の中で使うとともに、和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。
文や文章	カ 文の中における主語と述語との関係に気付くこと。	カ 主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係、指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解すること。	カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。	エ 単語の類別について理解するとともに、指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること。	オ 単語の活用、助詞や助動詞などの働き、文の成分の順序や照応など文の構成について理解するとともに、話や文章の構成や展開について理解を深めること。	ウ 話や文章の種類とその特徴について理解を深めること。
言葉遣い	キ 丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて使うとともに、敬体で書かれた文章に慣れること。	キ 丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くこと。	キ 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。		カ 敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。	エ 敬語などの相手や場に応じた言葉遣いを理解し、適切に使うこと。
表現の技法			ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。	オ 比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うこと。		
音読、朗読	ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	ケ 文章を音読したり朗読したりすること。			

〔知識及び技能〕（２） 情報の扱い方に関する事項

	(小) 第 1 学年及び第 2 学年	(小) 第 3 学年及び第 4 学年	(小) 第 5 学年及び第 6 学年	(中) 第 1 学年	(中) 第 2 学年	(中) 第 3 学年
情報と情報との関係	ア 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。	ア 考えとそれを支える理由や事例, 全体と中心など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。	ア 原因と結果, 意見と根拠など情報と情報との関係について理解すること。	ア 意見と根拠, 具体と抽象など情報と情報との関係について理解すること。	ア 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めること。
情報の整理		イ 比較や分類の仕方, 必要な語句などの書き留め方, 引用の仕方や出典の示し方, 辞書や事典の使い方を理解し使うこと。	イ 情報と情報との関係付けの仕方, 図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。	イ 比較や分類, 関係付けなどの情報の整理の仕方, 引用の仕方や出典の示し方について理解を深め, それらを使うこと。	イ 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと。	イ 情報の信頼性の確かめ方を理解し使うこと。

〔知識及び技能〕（３） 我が国の言語文化に関する事項

	(小)第１学年及び第２学年	(小)第３学年及び第４学年	(小)第５学年及び第６学年	(中)第１学年	(中)第２学年	(中)第３学年
伝統的な言語文化	ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉遊びを通して、言葉の豊かさに気付くこと。	ア 易しい文語調の短歌や俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。 イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。	ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。 イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること。	ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。 イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知ること。	ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。 イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。
言葉の由来や変化		ウ 漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解すること。	ウ 語句の由来などに関心をもつとともに、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付き、共通語と方言との違いを理解すること。また、仮名及び漢字の由来、特質などについて理解すること。	ウ 共通語と方言の果たす役割について理解すること。		ウ 時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いについて理解すること。
書写	ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 姿勢や筆記具の持ち方を正しくして書くこと。 (イ) 点画の書き方や文字の形に注意しながら、筆順に従って丁寧に書くこと。 (ウ) 点画相互の接し方や交わり方、長短や方向などに注意して、文字を正しく書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 (イ) 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 (ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 用紙全体との関係に注意して、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 (イ) 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 (ウ) 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 (イ) 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。	ウ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 (イ) 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。	エ 書写に関する次の事項を理解し使うこと。 (ア) 身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書くこと。
読書	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。	オ 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くこと。	オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気付くこと。	オ 読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解すること。	エ 本や文章などには、様々な立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かすこと。	オ 自分の生き方や社会との関わり方を支える読書の意義と効用について理解すること。

〔思考力，判断力，表現力等〕 A 話すこと・聞くこと

		(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年
話すこと	話題の設定	ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	ア 目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて，社会生活の中から話題を決め，異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。	ア 目的や場面に応じて，社会生活の中から話題を決め，多様な考えを想定しながら材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集						
	内容の検討						
	構成の検討	イ 相手に伝わるように，行動したことや経験したことに基づいて，話す事柄の順序を考えること。	イ 相手に伝わるように，理由や事例などを挙げながら，話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。	イ 話の内容が明確になるように，事実と感想，意見とを区別するなど，話の構成を考えること。	イ 自分の考えや根拠が明確になるように，話の中心的部分と付加的な部分，事実と意見との関係などに注意して，話の構成を考えること。	イ 自分の立場や考えが明確になるように，根拠の適切さや論理の展開などに注意して，話の構成を工夫すること。	イ 自分の立場や考えを明確にし，相手を説得できるように論理の展開などを考えて，話の構成を工夫すること。
聞くこと	考えの形成						
	表現	ウ 伝えたい事柄や相手に応じて，声の大きさや速さなどを工夫すること。	ウ 話の中心や話す場面を意識して，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などを工夫すること。	ウ 資料を活用するなどして，自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。	ウ 相手の反応を踏まえながら，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。	ウ 資料や機器を用いるなどして，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。	ウ 場の状況に応じて言葉を選ぶなど，自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること。
	共有						
	話題の設定	【再掲】 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて，社会生活の中から話題を決め，異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて，社会生活の中から話題を決め，多様な考えを想定しながら材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。
話し合うこと	情報の収集						
	構造と内容の把握	エ 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞き，話の内容を捉えて感想をもつこと。	エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き，話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え，自分の考えをもつこと。	エ 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。	エ 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え，共通点や相違点などを踏まえて，自分の考えをまとめること。	エ 論理の展開などに注意して聞き，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。	エ 話の展開を予測しながら聞き，聞き取った内容や表現の仕方を評価して，自分の考えを広げたり深めたりすること。
	精査・解釈						
	考えの形成						
話し合うこと	共有						
	話題の設定	【再掲】 ア 身近なことや経験したことなどから話題を決め，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的を意識して，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を比較したり分類したりして，伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。	【再掲】 ア 目的や意図に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて，日常生活の中から話題を決め，集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて，社会生活の中から話題を決め，異なる立場や考えを想定しながら集めた材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。	【再掲】 ア 目的や場面に応じて，社会生活の中から話題を決め，多様な考えを想定しながら材料を整理し，伝え合う内容を検討すること。
	情報の収集						
	内容の検討						
話し合うこと	話合いの進め方の検討	オ 互いの話に関心をもち，相手の発言を受けて話をつなぐこと。	オ 目的や進め方を確認し，司会などの役割を果たしながら話し合い，互いの意見の共通点や相違点に着目して，考えをまとめること。	オ 互いの立場や意図を明確にししながら計画的に話し合い，考えを広げたりまとめたりすること。	オ 話題や展開を捉えながら話し合い，互いの発言を結び付けて考えをまとめること。	オ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い，結論を導くために考えをまとめること。	オ 進行の仕方を工夫したり互いの発言を生かしたりしながら話し合い，合意形成に向けて考えを広げたり深めたりすること。
	考えの形成						
	共有						
	話題の設定						

〔思考力，判断力，表現力等〕B 書くこと

	(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年
題材の設定	ア 経験したことや想像したことなどから書くことを見付け，必要な事柄を集めたり確かめたりして，伝えたいことを明確にすること。	ア 相手や目的を意識して，経験したことや想像したことなどから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて，感じたことや考えたことなどから書くことを選び，集めた材料を分類したり関係付けたりして，伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて，日常生活の中から題材を決め，集めた材料を整理し，伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて，社会生活の中から題材を決め，多様な方法で集めた材料を整理し，伝えたいことを明確にすること。	ア 目的や意図に応じて，社会生活の中から題材を決め，集めた材料の客観性や信頼性を確認し，伝えたいことを明確にすること。
情報の収集						
内容の検討						
構成の検討	イ 自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。	イ 書く内容の中心を明確にし，内容のまとまりで段落をつくったり，段落相互の関係に注意したりして，文章の構成を考えること。	イ 筋道の通った文章となるように，文章全体の構成や展開を考えること。	イ 書く内容の中心が明確になるように，段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えること。	イ 伝えたいことが分かりやすく伝わるように，段落相互の関係などを明確にし，文章の構成や展開を工夫すること。	イ 文章の種類を選択し，多様な読み手を説得できるように論理の展開などを考えて，文章の構成を工夫すること。
考えの形成	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら，内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。	ウ 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに，事実と感想，意見とを区別して書いたりするなど，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 エ 引用したり，図表やグラフなどを用いたりして，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。	ウ 根拠を明確にしながら，自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり，表現の効果を考えて描写したりするなど，自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。	ウ 表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなど，自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること。
記述						
推敲	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに，間違いを正したり，語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。	エ 間違いを正したり，相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして，文や文章を整えること。	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して，文や文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って，表記や語句の用法，叙述の仕方などを確かめて，文章を整えること。	エ 読み手の立場に立って，表現の効果などを確かめて，文章を整えること。	エ 目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて，文章全体を整えること。
共有	オ 文章に対する感想を伝え合い，自分の文章の内容や表現のよいところを見付けること。	オ 書こうとしたことが明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど，文章に対する感想や意見を伝え合い，自分の文章のよいところを見付けること。	オ 根拠の明確さなどについて，読み手からの助言などを踏まえ，自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 表現の工夫とその効果などについて，読み手からの助言などを踏まえ，自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。	オ 論理の展開などについて，読み手からの助言などを踏まえ，自分の文章のよい点や改善点を見いだすこと。

〔思考力，判断力，表現力等〕 C 読むこと

		(小)第1学年及び第2学年	(小)第3学年及び第4学年	(小)第5学年及び第6学年	(中)第1学年	(中)第2学年	(中)第3学年
構造と内容の把握	説明的な文章	ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら，内容の大体を捉えること。	ア 段落相互の関係に着目しながら，考えとそれを支える理由や事例との関係などについて，叙述を基に捉えること。	ア 事実と感想，意見などとの関係を叙述を基に押さえ，文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。	ア 文章の中心的部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え，要旨を把握すること。	ア 文章全体と部分との関係に注意しながら，主張と例示との関係や登場人物の設定の仕方などを捉えること。	ア 文章の種類を踏まえて，論理や物語の展開の仕方などを捉えること。
	文学的な文章	イ 場面の様子や登場人物の行動など，内容の大体を捉えること。	イ 登場人物の行動や気持ちなどについて，叙述を基に捉えること。	イ 登場人物の相互関係や心情などについて，描写を基に捉えること。	イ 場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えること。		
精査・解釈	説明的な文章 (文章の内容)	ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。	ウ 目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約すること。	ウ 目的に応じて，文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けたり，論の進め方について考えたりすること。	ウ 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり，場面と場面，場面と描写などを結び付けたりして，内容を解釈すること。	イ 目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり，登場人物の言動の意味などについて考えたりして，内容を解釈すること。 ウ 文章と図表などを結び付け，その関係を踏まえて内容を解釈すること。	イ 文章を批判的に読みながら，文章に表れているものの見方や考え方について考えること。
	文学的な文章 (文章の形式)	エ 場面の様子に着目して，登場人物の行動を具体的に想像すること。	エ 登場人物の気持ちの変化や性格，情景について，場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。	エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。	エ 文章の構成や展開，表現の効果について，根拠を明確にして考えること。	エ 観点を明確にして文章を比較するなどし，文章の構成や論理の展開，表現の効果について考えること。	ウ 文章の構成や論理の展開，表現の仕方について評価すること。
考えの形成		オ 文章の内容と自分の体験とを結び付けて，感想をもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，感想や考えをもつこと。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。	オ 文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものにすること。	オ 文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたりすること。	エ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見をもつこと。
共有		カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。	カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し，一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。	カ 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し，自分の考えを広げること。			

※精査・解釈の指導事項について，中学校は（ ）